

# MUSEUM

2007 Winter

ミュージアム・アイズ

Vol.

47

# EYES

Mm  
MEIJI UNIVERSITY  
MUSEUM

特集

「明治大学及び長野県長和町における社会連携事業の推進に関する協定書」締結

## 黒耀石のふるさと鷹山遺跡群へようこそ!



黒耀石原産地星箕峠からみた鷹山遺跡群  
テラコットの帯がかつての湿地部。これを取り巻くように大掛かりな旧石器時代遺跡群が群集。発掘された1カ所の地点から出土する黒耀石製の石器の量は、同じく旧石器時代の遺跡群集地である武蔵野台地や相模野台地で、1時期をなす全ての遺跡から出土する黒耀石製の石器の量を上回ることもある。  
(長野県小県郡長和町)

- ◆ 黒耀石をめぐる活動のあゆみ
- ◆ 長和町歴史散歩スポット
- ◆ 収蔵室から
- ◆ M2カタログ
- ◆ 来た・見た・聞いた明治大学博物館
- ◆ 博物館友の会から

特別寄稿 熊野正也氏(明治大学博物館友の会顧問)

明治大学博物館

# 黒耀石のふるさと 鷹山遺跡群へようこそ!



第I遺跡を西からのぞむ(背景は鷹科山)

## ◆黒耀石のなりたち

長野県にある諏訪湖の北方、霧ヶ峰高原の一角では、数多くの黒耀石原産地が知られています。黒耀石は、火山岩の一種で、火山の噴火にともなって、マグマが地表付近で急冷されることで生成される、ガラス質の岩石です。

黒耀石は、日本列島の石器時代、すなわち旧石器時代から縄文時代にかけて、石器の原料として盛んに用いられていました。それは、うち割りやすい、鋭利な縁辺が得られるといった黒耀石の特性をよく知っていたからでしょう。

ところで、日本列島には北海道、中部日本、九州に黒耀石原産地の密集地があることが知られています。いわば三大原産地です。そのうち、中部日本には、信州霧ヶ峰、八ヶ岳、伊豆・箱根、神津島、栃木県高原山などの原産地があり、石器時代の関東地方一円で利用されていたことが知られています。そのなかでも、信州に産する黒耀石は、不純物が少なく透明感があり、また大振りであることから、好んで用いられていたようです。

一方、黒耀石は、火山帯にそって世界各地に産出する岩石でもあり、さまざまな時代と場所で石器原料となっていました。



第I遺跡S地点出土の石槍(旧石器時代)

## ◆黒耀石と石器時代

明治大学では、考古学研究室(戸沢充則名誉教授、安蒜政雄教授)が中心となり、1984年から黒耀石原産地星糞峠がある長野県小県郡長門町(現長和町)と協力して、鷹山遺跡群を発掘してきました。すると、鷹山の黒耀石の産出地に旧石器時代の遺跡が群がって残され、また、星糞峠には石器時代に黒耀石を地下採掘していた穴々が埋まりきらずに窪地となって多数残されていることが判明しました。

石器時代の黒耀石は、原産地に限られているにもかかわらず100km以上はなれた遺跡で石器となって見つかります。しかし、黒耀石に足が生えているわけではありませぬので、どうにかしてヒトが持ち運んだ結果です。遺跡から出土した星糞峠の黒耀石は、原産地の産地分析の分野では「和田・鷹山群」と呼ばれています。こうして、黒耀石の使い方から石器時代のモノとヒトの動きを知ることができるのです。

自然科学とも連携した「黒耀石考古学」による研究の結果、原産地とその遺跡は、石器時代の人々が黒耀石をとおして交流するネットワークの基点であったと考えられています。



星糞峠からみた鷹山遺跡群の風景(正面は大笹山)

## ◆社会連携事業のおいたち

明治大学と長門町は、2000年以降、鷹山遺跡群の地に、明治大学黒耀石研究センターを設置して「黒耀石考古学」を推進するとともに、2004年には黒耀石の研究と魅力を普及・公開することを目的に、町立星くずの里たかやま黒耀石体験ミュージアムが開館しました。

そして、2006年には、新たな協定のもとに、明治大学と長和町(旧和田村・旧長門町)とは、黒耀石に加えて中山道、和田宿、長久保宿などの文化財資源を保存・活用するとともに、「長和町民大学」などの生涯学習を展開する社会連携事業に着手しました。なお、旧和田村には、鷹山と並んで学史上有名な和田川流域や男女倉川流域の原産地と遺跡群があります。これまでの研究をふまえながら、鷹山とも連動しあう保存・活用の方策が望まれるところです。

## 鷹山遺跡群のなりたち

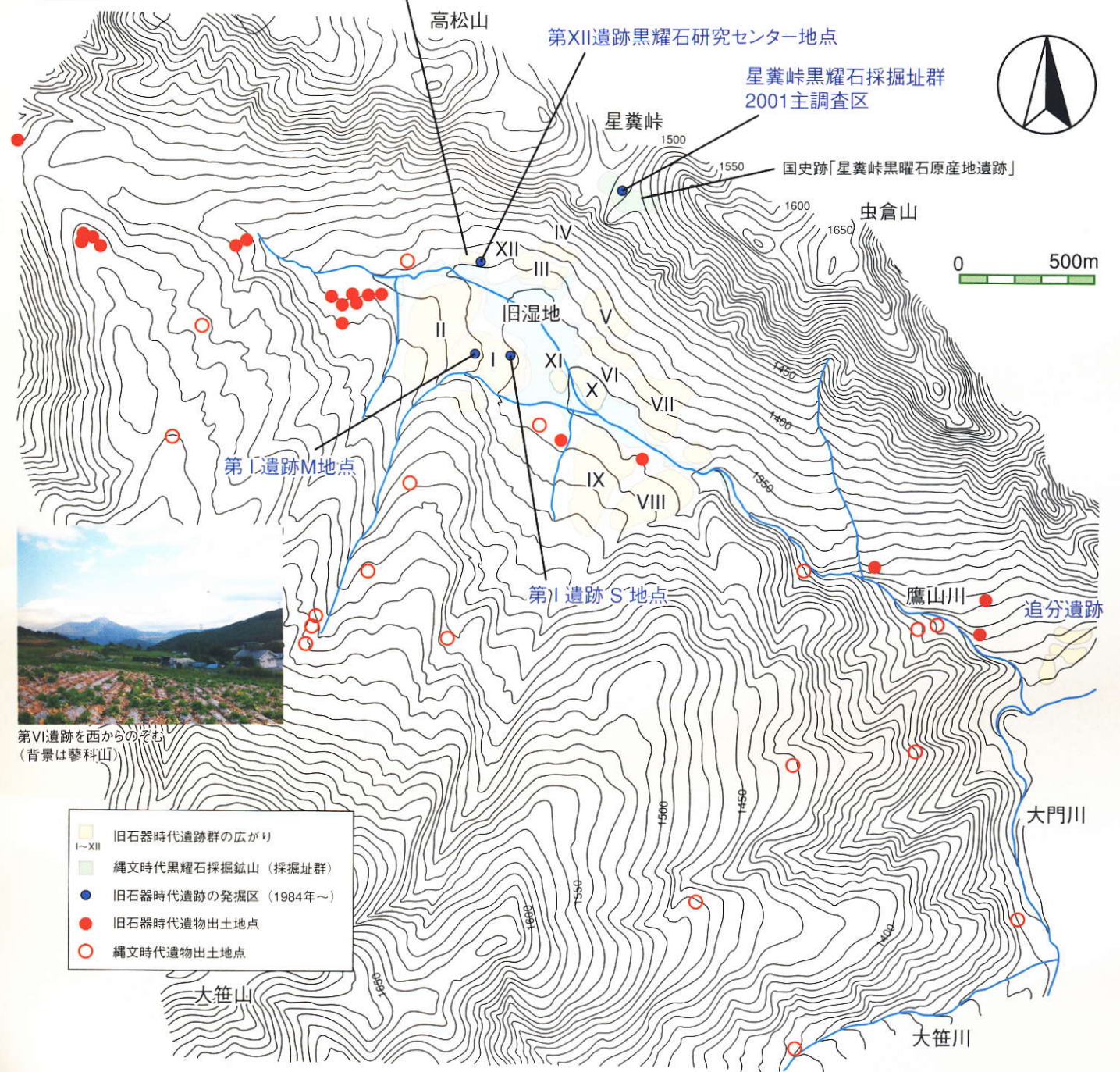
鷹山遺跡群の各地点から出土した石器は、明治大学博物館、明治大学黒耀石研究センター、長和町立星くずの里たかやま黒耀石体験ミュージアムの各展示場で見学することができます。



明治大学黒耀石研究センター(右)  
長和町立星くずの里たかやま黒耀石体験ミュージアム(左)



旧湿地部から見上げた星糞峠  
(国史跡「星糞峠黒耀石原産地遺跡」)



第VI遺跡を西からのぞむ(背景は鷹科山)

- 旧石器時代遺跡群の広がり (I~XII)
- 縄文時代黒耀石採掘鉱山(採掘址群)
- 旧石器時代遺跡の発掘区(1984年~)
- 旧石器時代遺物出土地点
- 縄文時代遺物出土地点

## ◆ 黒耀石をめぐる活動のあゆみ

|                                               |                           |                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 石器時代研究の先覚者<br>— 児玉司農武 —                       | 1955年                     | 鷹山遺跡群の発見。<br>児玉司農武により鷹山が学界に報告される。                                                                                       |
| 黒耀石への関心の高まり                                   | 1960年～                    | 信州ローム研究会や尖石考古館（現尖石縄文考古館）などによる男女倉や鷹山の発掘調査が活発に行われる。                                                                       |
| 鷹山遺跡群調査団による<br>発掘調査開始                         | 1984年～<br>1991年～          | 広域分布調査および第1遺跡M地点やS地点の発掘。<br>星糞峠で石器時代の黒耀石地下採掘遺跡を発掘。                                                                      |
| 明治大学黒耀石研究センターと<br>星くずの里たかやま黒耀石<br>体験ミュージアムの開館 | 2000年～<br>2001年<br>2004年～ | 明治大学黒耀石研究センター開設。文部科学省学術フロンティア事業開始。<br>黒耀石地下採掘遺跡が国史跡「鷹山黒耀石原産地遺跡」に指定される。<br>長門町立星くずの里たかやま黒耀石体験ミュージアム開館。                   |
| 明治大学・長和町による<br>地域連携への展開                       | 2005年<br>2006年            | 長門町・和田村が合併し長和町となる。<br>「明治大学及び長野県長和町間における社会連携事業推進に関する協定書」調印。合併記念特別展開催。<br>第2回黒耀石ふるさと祭り開催。<br>長和町文化財調査委員による明治大学キャンパス・ツアー。 |



第1回黒耀石ふるさと祭り（2005年）  
体験ミュージアムでの縄文パーベキュー



特別展「世界の黒耀石」見学風景  
（2005年）



第2回黒耀石ふるさと祭り  
明治大学マンドリンOBアンサンブルによる演奏風景



明治大学キャンパス・ツアー（2006年）

美ヶ原高原（美しの塔）



長和町の西端、八ヶ岳中信高原国定公園内にある美ヶ原高原は、標高2000mを数え、富士山や北・中央・南アルプス、浅間山等、まさに「日本の屋根」といった360度のパノラマが展望できます。また、ピーナスライン沿いでは、夏にはニッコウキスゲ等の高山植物、秋には紅葉が楽しめます。写真提供:長和町教育委員会

### 長和町は歩く博物館！

**アクセス**  
上信越自動車道 佐久ICからR142並取峠経由、R152で60分  
中央自動車道 諏訪ICからR152白樺湖経由で45分  
中央自動車道 岡谷ICからR142新和トンネル経由で40分  
（白樺湖から15分、新和トンネルから10分、大和橋から25分）  
（電車の最寄駅、JR上田駅から車で70分・茅野駅から車で40分）

**星くずの里たかやま 黒耀石体験ミュージアム**  
明治大学 黒耀石研究センター  
国の史跡に指定された星くずの里の黒耀石。縄文時代の山に産み出された黒耀石。本町の黒耀石の産地であることから、黒耀石の産地としての体験ができる。体験メニューは10種類以上用意。

**原始・古代 ロマン体験館**  
体験館のある大門は、縄文時代の大きなムラがあったところです。縄文土器づくりは、こちらで体験できます。（予約制となります）  
〒386-0601 長野県小県郡長和町大門1581  
原始・古代ロマン体験館  
☎0268-68-4339 Fax0268-68-4343

# 長和町 歴史散歩 スポット



長久保宿の町並み 写真提供:長和町教育委員会

長和町には、中山道六十九次のうち、「長久保宿」・「和田宿」という二つの宿場町があり、往時の面影が色濃く残っています。



歴史の雲気漂う中山道

### ◆ 中山道長久保宿

江戸の板橋宿から数えて二十七番目の宿となる長久保宿は、大門道、北国街道への分岐点にもあたり、交通の要衝として繁栄した宿場町です。宿場は当初、現在地より西側の依田川沿いに設けられましたが、寛永八年（1631）の大洪水によって流失したため、段丘上のこの地に移り、本陣・問屋を中心に東西方向に「縦町」が形成され、後に宿場が賑わうにつれ南北方向に「横町」が拡張していき、特異なL字型の町並みとなりました。

長久保宿には最大で43軒もの旅籠屋があり、山間の信濃二十六宿のなかでは規模が大きく、多くの旅人で賑わいました。本陣・石合家の「御殿」は、17世紀後半の構築と推定され、中山道に現存する本陣遺構としては、最も古い建造物であるといわれています。

和田宿の町並み 写真提供:長和町教育委員会



### ◆ 中山道和田宿

江戸の板橋宿から数えて二十八番目の宿となる和田宿は、中山道最大の難所といわれる標高1600m近い和田峠を控えた宿場町です。

この和田峠を越え、隣りの下諏訪宿までは五里八丁（約22km）、標高差800mの上り下りの峠道となるため、一日がかりの旅程となりました。このため足を休める旅人も多く、長久保宿同様に、信濃二十六宿のなかでは規模が大きい宿場町でした。

幕末の文久元年（1861）3月、本陣ほか宿場の大半が火災で焼失してしまいましたが、11月には皇女和宮の御下向が控えていたことから、幕府より二千両ほど拝借し、町並みを復興させ、この大通行を無事迎えました。

昭和53年（1978）から、「歴史の道中山道保存整備事業」として、中山道や本陣ほか建造物の保存整備を行い、国史跡に指定されました。新緑や紅葉の季節には、往時を偲びつつ多くの人が訪れています。

長和町教育委員会 文化財係  
問い合わせ先 〒386-0701 長野県小県郡長和町和田4233-1  
☎0268-41-6123 ☎41-6011



和田宿本陣  
写真提供:長和町教育委員会

# あまたき 雨滝遺跡出土ミニチュア土器

雨滝遺跡は岩手県二戸市の馬淵川流域にある遺跡で、1953年・1958年・1963年の三度にわたって発掘調査が行われました。この遺跡からは縄文時代後期から晩期の土器を中心に石器・土偶・岩版・勾玉などの装飾品やクミの炭化物など、多くの遺物が出土しました。とくに縄文時代晩期の東北地方を特徴づける亀ヶ岡式土器の研究に進展を与えた遺跡として知られています。今回ご紹介するのはその出土品のうち、ミニチュア土器です。

ミニチュア土器とは日常で用いられる土器に比べて極端に小さな土器のことで、文様がなく手づくねで粗雑なつくりのもの、通常の土器の形や文様を忠実に模したものとがあります。前者は手づくね土器、後者はミニチュア土器と呼ばれます。小型の土器はすでに縄文時代草創期の頃からあり、後期や

晩期になると深鉢・浅鉢・台付鉢・注口土器といった、各器種がそろそろようになります。

雨滝遺跡から出土したミニチュア土器は約50点ありますが、ここではその中から8点をご紹介します。写真の資料のうちで大きなもの(写真後列左端)でも高さ3.6cm、口径7.3cm、もっとも小さなもの(同前列左から2番目)では高さ1.0cm、口径2.4cmしかありません。この小さな土器にも文様が施文されています。また、壺形土器(同後列左から2番目)には漆が塗られていたあとがあり、注口土器(同前列左から3番目)の注口部分はしっかりと穴が貫通しているなど、通常の土器と同じように作られていることがわかります。

これらのミニチュア土器は、弥生時代以降にも同様に小型の土器があり、古墳時代以降には祭祀用の手づくね土器があります。縄文時代のミニチュア土器の用途については玩具説や祭祀用具説などがありますが、いずれも出土状況からは説明がしがたく、何に用いられていたのかは不明です。この種の土器は世界的にも広く分布しており、祭壇供献用・供献埋納用であったと考えられています。

当館の導入展示では明治大学記念館前遺跡出土の、江戸時代に玩具として用いられたかまどのミニチュア土器が展示されています。また、考古部門の常設展示では雨滝遺跡出土の縄文時代晩期の土器が展示されています。今回紹介したミニチュア土器と似た形や文様のものもあるので、比べてみるのも面白いかもしれません。



(堀 寛子)

**M2グッズ** ミュージアムショップ「エムツー」で販売しているグッズを紹介するこのコーナー。第8弾は一筆箋をご紹介します。

明治大学博物館が所蔵している資料をモチーフにデザインされた一筆箋です。前号のこのコーナーでご紹介した「ニュルンベルクの鉄の処女(アイアンメイデン)」の他に、「十手」、「土器」、「土偶」の4種類をご用意しています。それぞれデザインモデルとなった資料が常設展示室にありますので、ぜひ探してみてください。

|                               |                     |      |
|-------------------------------|---------------------|------|
| 売上げBEST3<br>(9月~11月)<br>~文具編~ | 1位 一筆箋(アイアンメイデン)    | 400円 |
|                               | 2位 レターセット(アイアンメイデン) | 400円 |
|                               | 3位 レターセット(十手)       | 400円 |



メディア掲載一覧

資料写真掲載

- 資料掲載【斬罪取片附の図(『徳川幕府刑事図譜』)】【引廻しの図(『徳川幕府刑事図譜』)】朝日ビジュアルシリーズ「週刊 藤沢周平の世界」第7号 朝日新聞社
- 資料掲載【新入りのしゃくり(『宇内深秘録』)】【石抱責の図(『徳川幕府刑事図譜』)】【公事方御定書】朝日ビジュアルシリーズ「週刊 藤沢周平の世界」第12号 朝日新聞社
- 資料掲載【埼玉県砂川遺跡の接合資料】【神奈川県月見野遺跡群発掘調査風景】【群馬県岩宿遺跡発掘調査風景】小菅将夫「赤城山麓の三万年前のムラ・下触牛伏遺跡」新泉社
- 資料掲載【ギロチン】『処刑台から見た世界史』 あんず堂
- 資料掲載【群馬県稲荷山遺跡出土土器】【千葉県江原台遺跡出土土器】【愛知県五貫森貝塚出土土器】【栃木県出流原遺跡出土土器】【群馬県岩宿遺跡出土土器】『満点学習まんが 社会 日本の歴史』 学習研究社
- 資料掲載【内藤家文書 延岡御城附之絵図】『近世大工の贈り物 三ヶ所神社の建築と彫刻』 三ヶ所神社
- 資料掲載【東京入城東京府京橋之図】松尾正人「本戸孝允」(シリーズ幕末維新の個性) 吉川弘文館
- 資料掲載【「はしご捕の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】『江戸の庶民の暮らし』 河出書房新社
- 資料掲載【和泉国日根郡嘉祥寺村文書「覚 山論立会絵図手附銀受取」】『待兼山論叢』40巻 日本学編 大阪大学文学研究科
- 資料掲載【地方測量之図】▶写真『日本の地理』第11巻 地図の見方・使い方 学習研究社
- 資料掲載【銀流し与力十手】【銀鏝】『月刊 秘伝』1月号 BABジャパン
- 資料掲載【地方測量之図】▶写真『週刊日本の100人 57号・伊能忠敬』デアゴスティーニ・ジャパン
- 資料放映【内藤家文書 第3部11法令(幕府法令-8)】【武家諸法度(寛文3年5月発布)】JAL国際線機内上映 NHK特選プログラム 「その時歴史が動いた 忠臣蔵・お裁き始末記~忠義か?幕府をゆるがした50日~」NHK 2006年12月1日~12月31日
- 資料放映【「白洲の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】【「大岡政談

- 天一坊実記】【大日本帝国憲法式之図】「にんげん日本史 ~裁判が変わる~」NHK教育テレビ 2007年1月22日・1月24日・1月29日・1月31日
- 資料放映【地方測量之図】▶写真「鳥のように虫のように歩いて作った日本地図」 NHKアーカイブス 2006年10月29日
- 資料放映【「御様の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】「開運!なんでも鑑定団」 テレビ東京 2006年12月12日



地方測量図

館紹介等の取材・撮影・掲載  
(雑誌・ラジオ・ウェブサイト)

- ◇掲載【「掘り出された<子ども>の歴史」紹介】『日本歴史』2006年10月号 日本歴史学会
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】明光義塾生徒会誌「BRIDGE」10月号 明光義塾
- ◇掲載【「掘り出された<子ども>の歴史」紹介】「ぐるっと東京」06年秋号 東京都交通局
- ◇掲載【明治大学博物館紹介】「メロガイド」12月号 日刊工業新聞社
- ◇掲載【「掘り出された<子ども>の歴史」紹介】東京新聞 中日新聞社
- ◇掲載【「掘り出された<子ども>の歴史」紹介】「高嶋ひでたけの特ダネラジオタ焼けホットライン」内「トヨタハッピータウンサーキット」 ニッポン放送

団体見学の記録 2006年9月~2006年11月

- 【一般】 いきいき倶楽部(7名)・銚田市郷土文化研究会(30名)・NHK文化センター青山教室(13名)・船橋市時活村(50名)・相模原市文化財調査・普及員 考古班(10名)・レクリエーションクラブ(11名)・明治大学韓国校友会支部(8名)・明治大学付属高等学校・中学校PTA(50名)・さいたまいきがいがい大学「宮二会」(5名)・明治大学校友会三鷹地域支部(11名)・三島地区保護司会(40名)・私立大学キャンパスシステム研究会 第二分科会(50名)・ベトナムの大学等からの視察団(13名)・歴史の会(10名)・社団法人中小企業診断協会 東京支部 城西支部(15名)・日本シミュレーション学会(26名)・鎌倉市人権擁護委員会(7名)・市川市柏井公民館(16名)・明治大学校友会八王子支部(18名)・相模原市文化財調査・普及 考古班(5名)・都立工芸高等学校公開講座(22名)・比留間家文書刊行会(11名)・サロンえんがわ歴史散歩の会(12名)・鏡の会(13名)
- 【小・中学校】 千代田区立お茶の水小学校(28名)・明治学院中学校(58名)・山形県村山市立葉山中学校(3名)・専修大学松戸中学校(17名)・多摩大学附属聖ヶ丘中学校(22名)
- 【高等学校】 高知学芸高等学校(18名)・鳥取敬愛高等学校(125名)・富山県立富山南高等学校(45名)・茨城県立並木高等学校(44名)・埼玉県立豊岡高等学校(49名)・長崎県立佐世保西高等学校(35名)
- 【大学・大学院】 日本文化大学(8名)・甲南大学文学部歴史文化学科 東谷ゼミ(10名)・明治大学大学院文学研究科 阿部ゼミ(7名)



## 特別寄稿「友の会の成立とこれから」

**陳列館から博物館への名称攻防戦** この話のはかつて学芸員養成課程の倉田公裕先生からお聞きしたことである。まだ杉原莊介先生が考古学陳列館長をなさっていた頃で、倉田先生が「博物館学界ではすでに陳列という用語が死語となり、授業にも差し障りがあるので考古学陳列館という名称を改めて欲しい」と申し入れたそう。ところが、杉原先生から「何をいっているんだ君は。あの天下の京都大学考古学陳列館がいまだその名称を使っているではないか」と言われ、すかさず倉田先生は「すでに10年ほど前から博物館という名称に改称されていますよ」と切り替えたという。これで一件着着かと思いきや杉原先生から最後の切り札がでた。「要是僕がこの陳列館という名称が好きだから変更しないよ」と。

このような経緯があつてから暫くして、私はこの考古学陳列館職員として就職することになった。1984(昭和59)年5月、杉原先生が亡くなられた翌年のことであつた。近い将来この陳列館の新構築が私に与えられた大きな課題であつた。杉原先生の後を引き受けられた大塚初重館長から「君の思うような大学博物館を目指して欲しい」といわれ、これを契機に私は従来の陳列館から、積極的に活動する大学博物館の方向を目指すことにした。

**私立大学初の友の会** まず最初に、名が体を表すの譬えどおり、陳列館から博物館へと名称変更しに踏み切った。続いて、一般を対象とする明治大学考古学セミナーを開講した。講師は全国で活躍中のOBと研究室員・博物館員が担当することにした。これは、疎遠しがちなOBと大学との関係をより密接にするためと、明大考古学の研究成果を一般に還元するためであり、さらに、博物館への支援はもとより大学と市民とを結ぶ架け橋的な存在になる「友の会」を作ることへの

布石でもあつた。これが予想以上の盛況であつた。この第1回セミナーを終え、特に熱心な受講生5・6名の方に集っていただき、友の会設立のための会合を数回行い、一気に加速することになった。一方、私は友の会が学内にあつて私生見的存在になつてはならないと思ひ、博物館を束ねていた当時の図書館事務部長に説明し承諾を得た。こうして1988年6月25日友の会設立総会において、わが国初の私立大学博物館友の会が産声を上げたのである。

**友の会への一提言** そして友の会が設立してから、間もなく20周年を迎えようとしている。この間、友の会はいろいろな活動を展開し、それなりの役割も果たしてきた。にもかかわらず、近年は一時に比べて会員数も下降しつつあるようだ。その原因は何か。一つは、友の会活動のマンネリ化が挙げられるのではないだろうか。だが、すべてを満足させる活動の変革は不可能である。そこで、私からの一つの提案であるが、周辺の友の会同士が協定を結び、お互いの特色のある事業に参加できるようなシステムの構築、つまり「友の会コンソーシアム構想」である。これによって、他の友の会会員相互の交流とさらに活動範囲を広め、同時に大学博物館ならではのユニークな活動とは何かを探り、魅力ある友の会づくりの礎の一助ともなるものと思う。

明治大学博物館友の会顧問 熊野正也  
 (明治大学図書館事務部長)

## 博物館案内

### 【開館情報】

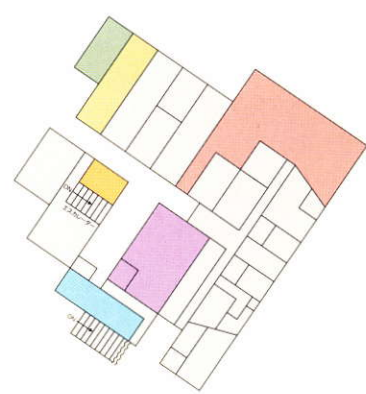
- 開館時間** 10:00～16:30 (入館16:00まで)
- 休館日** 夏期休業日(8/10～8/16)  
冬期休業日(12/26～1/7)  
8月の土・日に臨時休館があります。  
※開館時間・休館日には変更の場合があります。
- 観覧料** 常設展無料  
特別展は有料の場合があります。

### 【図書室ご利用案内】

- 開室時間** 月・金 10:00～18:30  
(8,9,2,3月は10:00～16:30)  
火～木 10:00～16:30  
土 10:00～12:30
- 閉室日** 日曜・祝日・大学が定める休日
- ※図書室はどなたでもご利用いただけます。  
※蔵書は原則閲覧・コピーのみとなりますのでご了承ください。



**交通機関**  
 JRN御茶ノ水駅(中央線)から徒歩5分  
 地下鉄御茶ノ水駅(丸の内線)から徒歩8分  
 地下鉄新御茶ノ水駅(千代田線)から徒歩8分  
 地下鉄神保町駅(都営新宿線・半蔵門線)から徒歩10分



**施設案内(B1)**  
 ■ 図書室  
 ■ 体験学習室  
 ■ 博物館教室  
 ■ ミュージアム・ショップ  
 ■ 特別展示室  
 ■ 大学史展示室



長和町の皆さんこんにちは。鷹山の特集号をお届けします。これからは全国的にも著名な和田峠、男女倉の黒耀石原産地や中山道なども取り上げます。MEが長和町の特徴を多くの方々にご存知いただくことに役立てば幸いです。また今回は、今年度で明治大学を退職される前博物館事務長の熊野正也氏より玉稿賜りました。(しま)